

2021年（令和3年） 投資信託に関するアンケート調査 調査結果サマリー

Point

- 投資信託の保有状況では、「投信現在保有層」が全年代で増加。特に30代は9.5ポイント増加している。(P5)
- 投資信託現在保有者のうち、「つみたてNISA」の保有率は前回比で10.8ポイント増加、また若年層ほど保有率が高い。(P6)
- 保有している投資信託の種類のうち、外国株式投資信託の保有が国内株式投資信託の保有を上回った。(P7)
- 年代別では、若年層ほど「少額でも分散投資が可能」、「積立投資ができる」と認識している人が多い。(P9)
- 積立投資プランについて、「少額から利用できること」が「積立投資プランがあることを知らない」を上回った。(P12)
- 投資信託現在保有者のうち、積立投資の利用率は62.7%、前回比で9.7ポイント増加。全世代で増加。(P13)
- 投資信託の興味・関心・購入のきっかけは、「YouTube等の動画配信を観て」「SNSからの情報を通じて」が20代・30代で高い傾向。(P17)



■ 調査計画の概要	-----	2
1. 本調査の回答者プロフィール	-----	3
2. 投資信託の保有状況	-----	5
3. 投資信託の購入・保有に関する意識	-----	8
4. 投資信託の積立投資の認知・利用状況	-----	12
5. 投資信託の非購入理由	-----	15
6. 投資信託購入検討のきっかけ	-----	16
7. 投資信託の興味・関心・購入のきっかけ	-----	17
8. 投資信託購入時参考情報	-----	18
9. 投資意識に関する状況	-----	19

■調査計画の概要



調査の目的	全国の20歳～79歳の男女個人を対象に、投資信託の保有状況や特徴認知、満足度、積立投資の認知などを把握すると同時に、投資信託保有未経験層に対しては、非購入理由や購入検討のきっかけを確認することで、「貯蓄から資産形成へ」の流れを促進するための課題を探り、今後の投資信託の利用拡大及び啓発普及活動に役立つ資料とすること。								
調査手法	インターネット調査（抽出フレーム：NRCネットワークパネル） ※ インターネット調査のモニターは、一般的に情報感度が高い事が確認されており、金融商品（投資信託）においては保有率や制度認知が郵送調査モニターなどに比べて高めに出る傾向にあります。								
調査地域	全国（首都圏、阪神圏、その他地域の3ブロック）								
調査対象	20～79歳の男女								
サンプル数	総計20,000サンプル								
	* 性・年代・エリアで割付実施（割付は令和2年1月1日現在の住民基本台帳に基づく）。								
	* 職業条件による除外は実施していない。								
	＜性・年代・エリアごとの回収数詳細＞								
			20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	20-79歳計
	男性	首都圏	422	496	639	550	436	426	2,969
		阪神圏	192	213	289	252	222	233	1,401
		その他地域	714	850	1,101	965	1,030	922	5,582
		男性計	1,328	1,559	2,029	1,767	1,688	1,581	9,952
	女性	首都圏	408	467	599	507	436	494	2,911
阪神圏		193	215	294	259	239	281	1,481	
その他地域		665	809	1,058	971	1,076	1,077	5,656	
	女性計	1,266	1,491	1,951	1,737	1,751	1,852	10,048	
	TOTAL	2,594	3,050	3,980	3,504	3,439	3,433	20,000	
※ エリアの定義とエリア計での回収数は以下の通り。 【首都圏】 東京、神奈川、埼玉、千葉／計5,880サンプル 【阪神圏】 大阪、京都、兵庫、奈良／計2,882サンプル 【その他地域】 上記以外の都道府県／計11,238サンプル									
調査時期	2021年11月9日（火）～ 11月16日（火）								
調査主体	一般社団法人 投資信託協会								
調査実施機関	株式会社日本リサーチセンター								

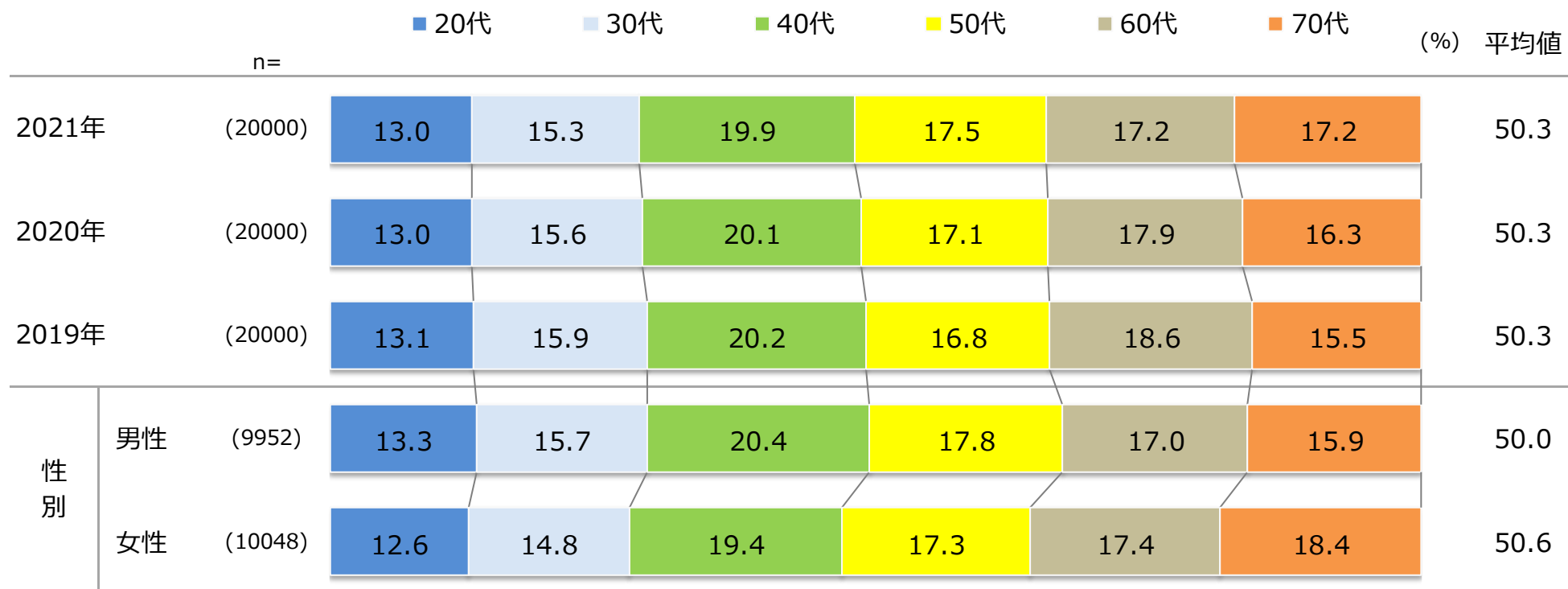
＜グラフ・表・コメントについて＞

- 本報告書の回答割合等の数値(%)は、小数点第2位を四捨五入して表示しているため、数値を足し上げた際に内訳の合計が100%ちょうどにならない場合がある。また、小計においても、内訳を足し上げた数値と誤差が生じる場合がある。
- グラフ、数表上の数値は特に断りがない限りは%値となる。また“n”は各属性の実数(サンプル数)を表しており、n数が少ない属性(30未満)のデータをみる際は、あくまで参考値として捉えるように注意する必要がある。

1. 本調査の回答者プロフィール（1）

回答者の性別・年代

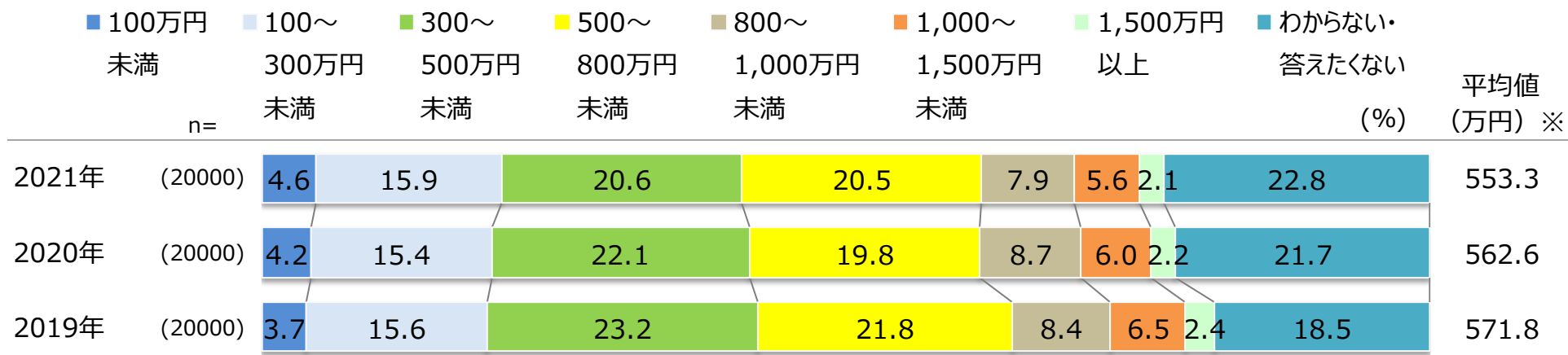
(Q30・31 報告書P18)



1. 本調査の回答者プロフィール（2）

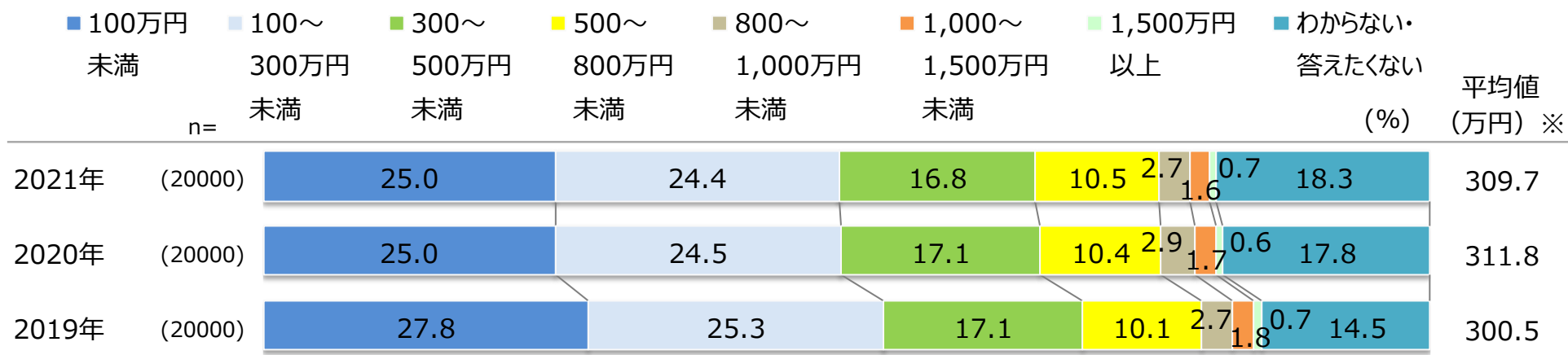
回答者の世帯年収

(Q33① 報告書P25)



回答者の個人年収

(Q33② 報告書P27)



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り

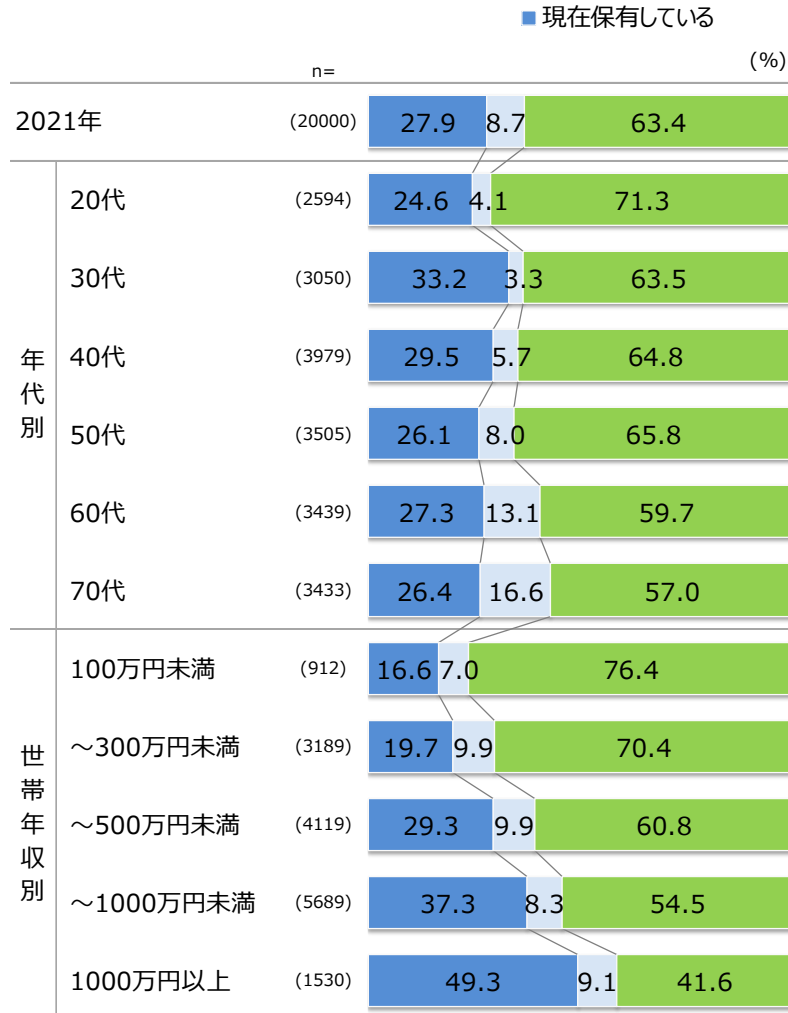
100万円未満：50万円 / 100~300万円未満：200万円 / 300~500万円未満：400万円 / 500~800万円未満：650万円 / 800万円~1000万円未満：900万円 / 1000~1500万円未満：1250万円 / 1500万円以上：1750万円

2. 投資信託の保有状況（1）

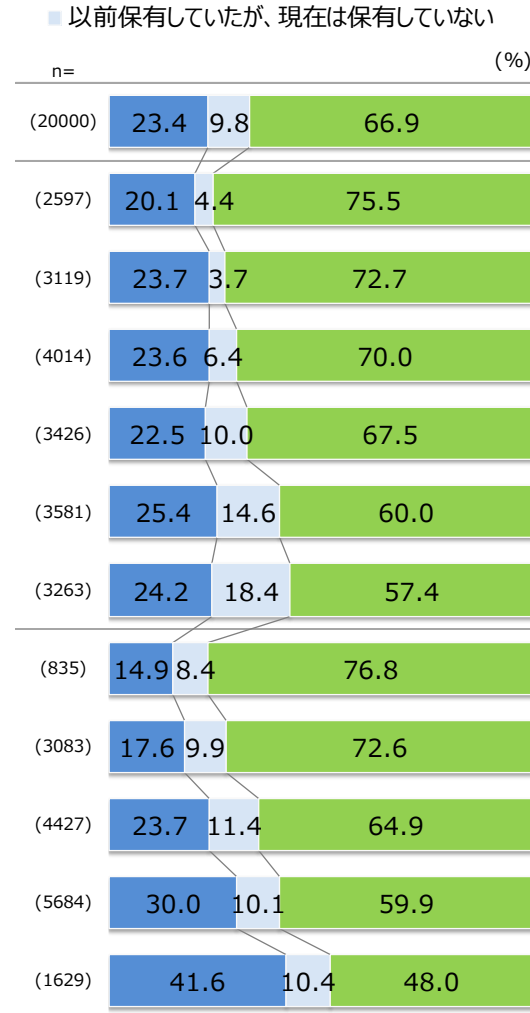
投資信託の保有状況

(Q2 報告書P23)

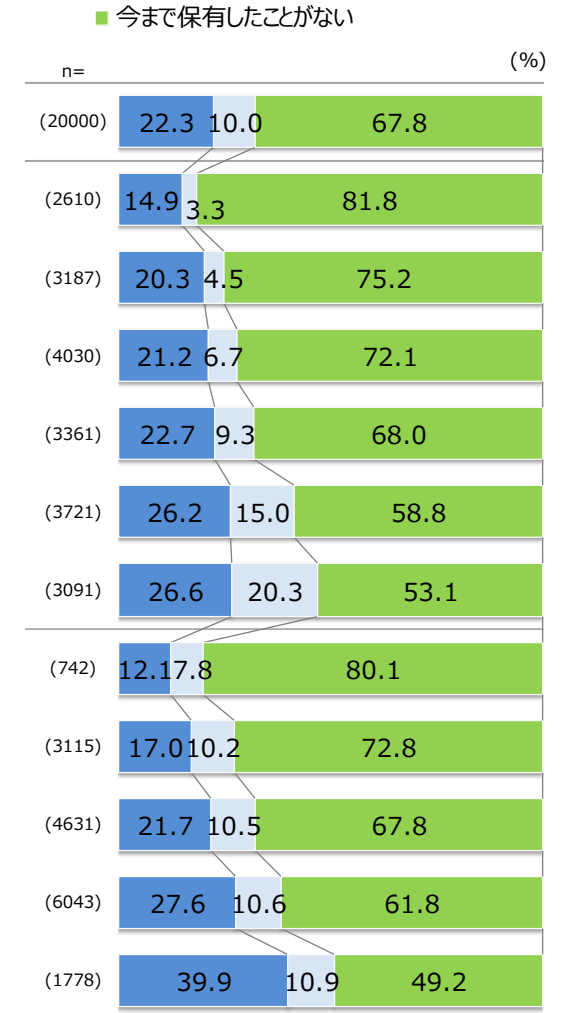
【2021年属性別】



【2020年】



【2019年】



- 投資信託の保有状況は、“投信現在保有層”(27.9%)、“投信保有経験層”(8.7%)、“投信保有未経験層”(63.4%)で、“投信現在保有層”が前回より増加。
- 世帯年収が高いほど、“投信現在保有層”が増加する。前回と比べて、全年代で“投信現在保有層”が増加。特に30代は、9.5ポイント増加している。

2. 投資信託の保有状況（2）



投資信託の保有口座

（Q3 報告書P33）

※選択肢「企業型DC（企業型確定拠出年金）」「iDeCo（個人型確定拠出年金）」は、年金受取期間に投資信託の運用を継続している者が含まれる
 ※選択肢「ポイント投資/運用の口座」は2021年より聴取

（投資信託現在保有者ベース）

【2021年属性別】

【2020年】

【2019年】

	n=	2021年属性別									2020年									2019年								
		特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座	つみたてNISA	NISA	ポイント投資/運用の口座	iDeCo（個人型確定拠出年金）	企業型DC（企業型確定拠出年金）	その他	わからない・忘れて	わからない・忘れて	特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座	つみたてNISA	NISA	iDeCo（個人型確定拠出年金）	企業型DC（企業型確定拠出年金）	その他	わからない・忘れて	特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座	つみたてNISA	NISA	iDeCo（個人型確定拠出年金）	企業型DC（企業型確定拠出年金）	その他	わからない・忘れて				
2021年	(5584)	62.4	35.2	35.1	17.5	16.6	9.8	0.8	1.7	(4675)	65.1	24.4	40.4	13.5	9.6	1.0	3.4	(4452)	69.7	17.4	43.2	11.8	7.1	0.7	2.4			
性別	男性	(3491)	66.2	35.2	35.8	19.5	18.1	12.4	0.7	1.4	(2910)	67.2	24.3	40.3	15.5	12.9	0.9	2.7	(2661)	72.2	17.6	42.1	14.1	10.0	0.6	2.4		
	女性	(2093)	56.0	35.2	34.0	14.0	14.1	5.3	1.0	2.2	(1765)	61.6	24.4	40.6	10.3	4.3	1.1	4.5	(1791)	66.0	17.1	44.8	8.4	2.8	0.9	2.4		
年代別	20代	(638)	47.0	61.3	22.4	22.3	16.0	14.4	0.5	1.6	(521)	48.2	48.0	32.8	18.6	15.5	1.7	4.4	(390)	51.3	39.2	33.6	18.2	14.1	0.5	4.6		
	30代	(1012)	56.1	54.5	27.4	28.3	24.7	15.7	0.7	1.2	(738)	55.0	39.8	34.0	21.5	16.1	1.1	3.4	(646)	59.1	32.7	36.1	20.6	9.3	0.6	2.3		
	40代	(1174)	60.4	44.8	28.6	23.3	25.6	13.1	0.4	1.2	(946)	61.0	29.9	36.0	22.4	13.0	0.7	2.7	(855)	66.9	20.2	40.0	20.5	9.8	0.6	2.1		
	50代	(916)	62.2	27.2	35.5	16.5	22.1	9.5	1.3	1.4	(770)	66.2	18.8	38.2	16.8	11.3	1.6	2.6	(763)	72.1	14.8	41.5	15.6	11.9	1.0	2.9		
	60代	(938)	69.7	16.3	45.9	9.1	5.9	4.4	0.9	2.3	(909)	74.3	11.7	50.3	3.0	3.9	0.7	3.4	(976)	74.9	7.0	49.7	2.0	2.4	1.0	1.9		
	70代	(906)	75.4	10.6	49.6	4.1	2.0	1.3	1.0	2.6	(791)	78.8	7.7	47.4	1.1	0.8	0.5	4.3	(822)	81.3	6.8	50.6	0.7	0.6	0.4	1.9		
世帯年収別	100万円未満	(151)	62.9	24.5	38.4	11.9	15.9	4.6	0.0	1.3	(124)	60.5	21.8	44.4	12.1	4.8	0.0	3.2	(90)	70.0	10.0	42.2	11.1	3.3	0.0	6.7		
	～300万円未満	(629)	63.1	25.9	36.7	12.4	7.2	1.7	1.3	2.2	(542)	68.3	17.5	42.8	7.0	2.6	1.1	4.1	(529)	67.5	15.7	45.6	4.9	2.3	0.8	3.4		
	～500万円未満	(1207)	60.4	37.6	32.8	15.8	14.1	6.2	0.8	1.8	(1049)	65.3	24.7	39.7	10.5	5.1	0.8	2.7	(1006)	68.3	19.0	42.5	9.4	3.3	0.8	2.6		
	～1000万円未満	(2120)	62.1	39.7	33.6	20.0	20.6	12.7	0.8	0.6	(1705)	63.4	27.9	40.0	16.7	13.0	1.0	2.4	(1667)	69.3	17.3	43.1	12.7	8.4	0.7	1.2		
	1000万円以上	(754)	68.8	36.1	39.9	21.4	23.6	19.9	0.7	1.1	(677)	69.3	25.0	43.0	20.5	18.3	1.5	1.9	(710)	75.6	19.2	45.2	20.3	16.5	1.0	1.8		

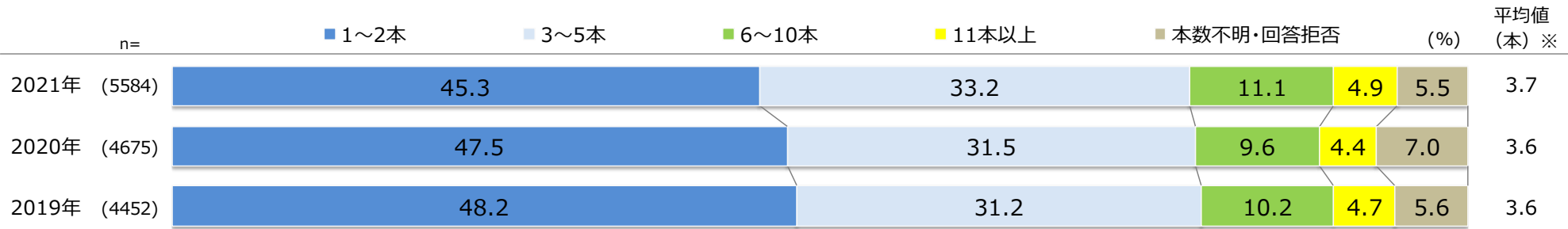
- 投資信託の保有口座は、「特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座」が62.4%と最も高く、「つみたてNISA」(35.2%)、「NISA」(35.1%)が続く。「ポイント投資/運用口座」(17.5%)と「iDeCo（個人型確定拠出年金）」(16.6%)は10%台となっている。前回より「つみたてNISA」が10.8ポイント増加し、「NISA」は5.3ポイント減少。
- 「特定口座もしくは一般口座など通常の課税口座」「NISA」は高齢層ほど保有率が増加傾向にあり、「つみたてNISA」は若年層ほど保有率が高い。「つみたてNISA」は、前回に比べて20～50代では8.4～14.9ポイント増加。「ポイント投資/運用口座」は20～40代が20%台となっている。

2. 投資信託の保有状況（3）

現在保有している投資信託の本数

（Q4 報告書P37）

（投資信託現在保有者ベース）

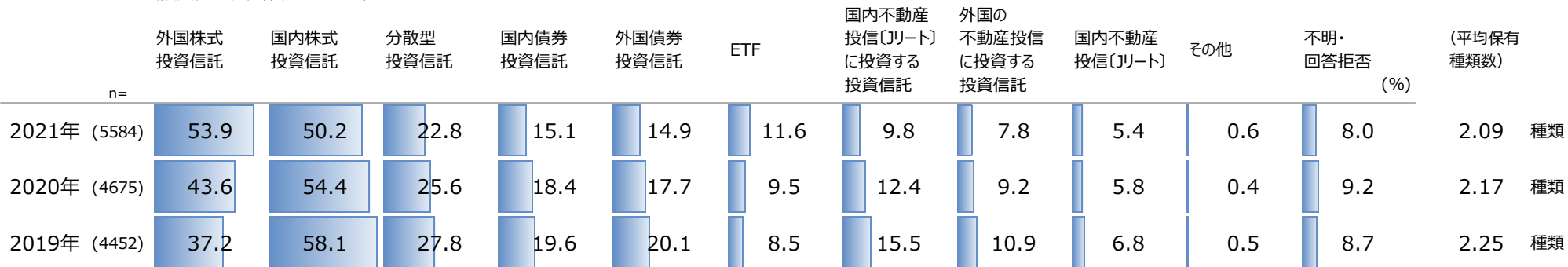


※ 平均値は「本数不明・回答拒否」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は次の通り 1~2本：1.5本 / 3~5本：4本 / 6~10本：8本 / 11本以上：13本

保有している投資信託の種類（重複回答）

（Q6 報告書P35）

（投資信託現在保有者ベース）



※平均保有種類数の算出方法

- ①投信保有者(n=5584/4675/4452)から「種類不明・回答拒否」を控除。
- ②平均保有数は、保有種類別回答者数の延べの総数を、①で割って算出。

- 現在保有している投資信託の保有本数は、「1~2本」(45.3%)が半数弱を占める。平均は3.7本で前回より、やや増加。
- 現在保有している投資信託の種類は、「外国株式投資信託」が53.9%で最も高い。次いで「国内株式投資信託」(50.2%)、「分散型投資信託」(22.8%)、「国内債券投資信託」(15.1%)、「外国債券投資信託」(14.9%)が続く。前回より「外国株式投資信託」が10.3ポイント増加。投資信託の平均保有数は2.09種類となっている。前回の2.17種類に比べて若干減少。

3. 投資信託の購入・保有に関する意識（1）



投資信託の特徴で知っているもの（重複回答）

(Q12 報告書P77) ※選択肢「ポイントで投資信託に投資/運用できる」「インフレ率より投資信託の収益率が高ければ、そのお金で1年後に今より多くの物が購入できる」「1社の株を買うよりも、株式投資信託を買う方が分散効果が期待できる」「金利が上がると公社債投資信託の基準価額は下がる」は、2021年より聴取
 ※「過去の運用実績は、将来のリターンを保証するものではない」は2020年より聴取

※「国内(籍)の投資信託と海外(籍)の投資信託がある」は、2020年「国内籍の投資信託と外国籍の投資信託がある」、2019年「国内の投資信託と海外の投資信託」で聴取

元本の保証はない
 リスクとリターンは表裏一体の関係にある
 価格の変動が大きい
 過去の運用実績は、将来のリターンを保証するものではない
 銀行など証券会社以外の金融機関でも購入できる
 国内(籍)の投資信託と海外(籍)の投資信託がある
 NISAやDCで投資信託が購入できる
 ポイントで投資信託に投資/運用できる
 投資信託は、運用会社が運用している
 販売手数料と別に運用管理(信託報酬)がかかる
 1社の株を買うよりも、株式投資信託を買う方が分散効果が期待できる
 投資信託の評価を行う会社がある
 MRFは投資信託商品である
 投資信託は、信託銀行で分別管理されている
 基準価額は新聞や投資信託協会のHPでも見ることができる
 インフレ率より投資信託の収益率が高ければ、そのお金で1年後に今より多くの物が購入できる
 金利が上がると公社債投資信託の基準価額は下がる
 この中で知っているものはない

年	n=	元本の保証はない	リスクとリターンは表裏一体の関係にある	価格の変動が大きい	過去の運用実績は、将来のリターンを保証するものではない	銀行など証券会社以外の金融機関でも購入できる	国内(籍)の投資信託と海外(籍)の投資信託がある	NISAやDCで投資信託が購入できる	ポイントで投資信託に投資/運用できる	投資信託は、運用会社が運用している	販売手数料と別に運用管理(信託報酬)がかかる	1社の株を買うよりも、株式投資信託を買う方が分散効果が期待できる	投資信託の評価を行う会社がある	MRFは投資信託商品である	投資信託は、信託銀行で分別管理されている	基準価額は新聞や投資信託協会のHPでも見ることができる	インフレ率より投資信託の収益率が高ければ、そのお金で1年後に今より多くの物が購入できる	金利が上がると公社債投資信託の基準価額は下がる	この中で知っているものはない	
2021年	(20000)	50.6	42.5	36.3	32.3	31.2	27.8	25.4	25.0	24.4	21.4	18.1	11.5	9.8	9.8	9.7	8.2	6.4	33.3	
2020年	(20000)	49.7	40.9	34.5	30.6	31.2	24.9	24.4	-	24.4	21.0	-	12.0	10.5	9.2	10.6	-	-	33.8	
2019年	(20000)	51.6	40.5	36.3	-	34.5	37.0	24.7	-	26.9	22.5	-	12.8	11.3	9.9	11.6	-	-	34.3	
性別	男性	(9952)	53.9	45.7	40.9	37.3	33.2	31.7	28.6	26.6	30.1	26.1	22.3	15.0	12.7	13.2	12.0	11.7	8.5	29.1
	女性	(10048)	47.3	39.4	31.8	27.4	29.2	23.9	22.2	23.4	18.8	16.8	13.8	8.1	6.9	6.4	7.4	4.7	4.4	37.5
年代別	20代	(2594)	29.4	33.0	28.5	22.5	18.8	19.5	19.9	23.2	16.6	12.6	13.0	7.7	6.4	7.0	5.1	7.2	4.7	42.7
	30代	(3050)	44.4	42.5	34.2	32.0	26.3	24.5	26.3	32.6	25.5	21.3	19.4	10.8	7.3	10.8	8.8	9.5	5.4	35.2
	40代	(3979)	50.6	43.3	35.3	32.4	30.5	27.7	27.2	30.7	25.2	22.6	19.0	13.2	9.3	10.8	9.1	9.0	5.9	33.2
	50代	(3505)	53.7	42.5	34.9	33.0	32.0	27.1	25.9	27.1	24.9	22.2	18.6	12.3	12.2	11.0	11.0	8.7	6.9	34.5
	60代	(3439)	59.6	45.4	40.1	35.8	36.8	31.8	25.4	20.9	26.1	23.2	18.8	12.4	11.6	10.0	11.6	8.1	7.6	29.5
	70代	(3433)	59.9	46.0	43.0	35.6	39.2	33.8	26.2	15.1	26.2	24.2	18.2	11.4	11.0	8.2	11.3	6.5	7.6	27.4
世帯年収別	100万円未満	(912)	36.0	31.7	26.3	22.5	22.7	18.8	16.3	19.7	14.8	12.9	11.4	9.0	7.3	5.6	5.3	4.3	3.9	45.8
	~300万円未満	(3189)	49.6	40.1	33.0	28.8	27.6	24.0	20.4	21.5	19.9	17.1	14.7	8.0	7.3	5.9	6.9	5.4	4.1	35.2
	~500万円未満	(4119)	54.4	46.1	40.1	34.9	33.7	29.7	27.1	26.1	25.9	22.2	19.3	12.1	9.7	9.6	10.1	7.8	6.8	27.6
	~1000万円未満	(5689)	57.7	49.3	42.7	38.4	36.4	33.9	32.1	30.9	30.9	27.1	22.3	14.2	12.5	13.0	11.9	10.8	7.9	24.7
	1000万円以上	(1530)	63.2	55.9	49.4	46.9	43.7	41.0	38.8	33.9	38.2	35.2	32.0	22.3	18.6	20.8	18.8	19.5	14.7	19.9
投資信託保有状況別	保有層・保有経験層	(5584)	74.1	65.9	61.2	58.0	53.5	53.1	52.7	45.1	49.4	46.3	40.1	26.6	22.1	22.9	23.2	20.4	14.7	6.1
	保有層・保有経験層(現在非保有)	(1733)	70.1	56.8	53.7	47.7	45.2	44.0	29.3	20.9	34.5	32.4	24.4	16.7	18.9	14.3	14.1	9.6	9.9	8.9
	保有層・未経験層	(2548)	55.9	41.9	36.0	31.8	30.5	24.7	20.8	18.2	23.2	17.9	15.1	8.3	6.5	6.2	5.8	5.7	4.4	31.0
	保有層・未経験層	(10135)	33.0	27.4	19.7	15.6	16.7	11.8	10.8	16.4	9.2	6.7	5.6	3.1	2.3	2.6	2.4	1.8	1.8	53.1
現在保有種類別	株式投資信託保有層	(4288)	76.0	67.4	63.6	61.1	55.2	55.7	56.0	48.8	53.0	49.4	43.1	29.5	24.2	25.8	25.8	23.4	16.5	4.4
	その他投資信託保有層	(837)	73.7	69.3	63.0	55.3	56.3	54.1	48.7	36.3	45.0	43.1	36.4	20.5	18.8	16.7	17.9	14.5	11.5	3.6

- 投資信託の特徴認知では、「元本保証がない」(50.6%)が最も高く、「リスクとリターンは表裏一体の関係」(42.5%)、「価格変動と為替リスクがある」(36.3%)、「過去実績は将来のリターンを保証するものではない」(32.3%)、「証券会社以外でも購入できる」(31.2%)が上位。上位4項目は前回より増加。
- 年代が高くなるほど、商品特徴の認知率が高くなる傾向にあるが、「ポイントで投資信託に投資/運用できる」は若年層ほど高くなる。世帯年収が高くなるほど、いずれの商品特徴の認知率も高くなる。
- 投信現在保有種類別で見ると、株式投信保有層はその他投信保有層に比べて、「ポイントで投資信託に投資/運用できる」「投信の評価を行う会社がある」「投信は信託銀行で分別管理」「インフレ率より収益率が高ければ1年後により多くのものが購入できる」の認知度が8.9ポイント以上高い。

3. 投資信託の購入・保有に関する意識（2）

他の金融商品と比較して投資信託に特に魅力を感じる点

(Q15② 報告書P63)

※「外国への投資が手軽にできる」、2019年は「海外投資が手軽にできる」で聴取

(投資信託現在保有者・保有経験者ベース)

	n=	少額でも分散投資ができる	専門知識や時間がなくても投資ができる	積立投資ができる	比較的高い利回りが期待できる	定期的に分配金が受け取れる	少額でも投資の面白味がある	種類が豊富で目的に応じたものが選べる	手数料が比較的安い	外国への投資が手軽にできる	分配金が自動的に再投資される商品がある	購入手続きが簡単である	購入後の運用に関する情報が多い	その他	わからない・特にな
2021年	(7317)	25.5	13.9	9.5	8.6	6.4	5.1	4.0	3.5	2.7	2.4	2.1	0.7	0.1	15.4
2020年	(6626)	24.3	12.9	8.4	9.4	7.4	5.9	3.7	2.6	1.9	2.7	2.3	0.9	0.2	17.6
2019年	(6449)	23.2	12.3	6.9	9.4	9.2	6.1	3.2	2.5	1.6	2.1	2.3	0.8	0.2	20.0
年代別	20代 (744)	35.5	14.1	11.7	6.7	2.0	5.8	3.5	4.0	1.5	2.0	2.6	1.3	0.1	9.1
	30代 (1112)	35.0	12.3	14.0	6.5	1.6	5.8	4.1	4.5	2.9	2.3	1.5	1.1	0.2	8.1
	40代 (1400)	30.4	13.4	13.4	5.9	3.5	6.0	3.1	5.0	3.6	1.9	2.1	0.4	0.1	11.3
	50代 (1198)	26.4	12.7	9.1	9.3	4.2	4.3	4.5	3.8	4.0	2.1	2.7	0.6	0.1	16.4
	60代 (1387)	19.3	15.9	6.9	11.0	8.3	4.5	4.1	2.5	2.3	2.8	1.5	0.5	0.2	20.1
	70代 (1476)	13.8	14.7	4.2	11.0	15.0	4.7	4.4	1.8	1.9	2.8	2.2	0.7	0.1	22.7

他の金融商品と比較して投資信託に特に不満を感じる点

(Q16② 報告書P67)

※「高い利回りを期待できる一方で元本保証がない」、2020年まで「元本保証がない」で聴取
 ※「金融機関によって取り扱っていない商品がある」は、2021年より聴取

(投資信託現在保有者・保有経験者ベース)

	n=	手数料が比較的高い	仕組みや運用手法がわかりにくい	リターンが低い	高い利回りを期待できる一方で元本保証がない	専門知識がない商品を選びにくい	株式に比べて面白さに欠ける	種類が多く選択に迷う	公社債に比べてリスクが高い	金融機関によって取り扱っていない商品がある	購入後の運用に関する情報が少ない	手続きがわずらわしい	クローズド期間がある	その他	わからない・特にな
2021年	(7317)	13.1	10.6	9.2	8.7	7.4	6.1	5.8	4.2	3.5	3.1	2.5	1.7	0.6	23.5
2020年	(6626)	14.1	10.6	10.4	14.0	7.4	6.0	5.0	4.6	-	3.2	2.1	2.2	0.7	19.8
2019年	(6449)	14.7	9.7	11.0	15.2	6.8	6.1	4.4	5.6	-	2.8	1.8	1.5	0.4	19.7
年代別	20代 (744)	7.3	16.0	10.3	3.4	6.6	6.7	6.2	4.4	3.6	4.2	4.2	2.4	0.3	24.5
	30代 (1112)	9.6	9.8	10.2	4.9	8.4	7.6	6.7	3.2	6.4	3.3	2.8	2.3	0.5	24.4
	40代 (1400)	9.6	11.0	11.6	6.1	7.9	7.5	5.6	2.9	4.8	3.0	3.3	1.7	0.8	24.2
	50代 (1198)	14.5	8.8	9.1	9.0	6.3	4.9	6.8	4.5	2.8	2.4	2.8	2.1	0.9	25.0
	60代 (1387)	17.2	10.2	8.1	11.8	7.7	4.3	5.8	5.0	2.5	2.3	2.0	1.2	0.4	21.4
	70代 (1476)	17.1	9.7	6.7	13.4	7.2	6.2	4.2	4.8	1.6	3.8	1.2	1.1	0.4	22.6

- 投資信託で特に魅力を感じる点としては、「少額でも分散投資ができる」(25.5%)、「専門知識や時間がなくても投資できる」(13.9%)が上位にあがる。
- 年代別では、若年層ほど「少額でも分散投資ができる」「積立投資ができる」が高く、高齢層ほど「比較的高い利回りが期待できる」「定期的に分配金が受け取れる」が高くなる傾向。
- 投信で特に不満を感じる点は、「手数料が比較的高い」(13.1%)、「仕組みや運用手法がわかりにくい」(10.6%)、「リターンが低い」(9.2%)が上位。
- 年代別でみると、高齢層ほど「手数料が比較的高い」「高い利回りを期待できる一方で元本保証がない」が増加する。また、若年層では「リターンが低い」「金融機関によって取り扱っていない商品がある」が高い傾向。

3. 投資信託の購入・保有に関する意識（3）

投資信託の購入の際に重視した点（重複回答）

(Q10① 報告書P53)

(投資信託現在保有者・保有経験者ベース)

	n=	過去の運用実績	値上がりへの期待	手数料や運用管理費用の水準	値下がり不安が少ない	少額から投資できる	換金のしやすさ	商品内容のわかりやすさ	過去の分配金額	純資産額の大きさ	分配頻度	商品コンセプト	評価会社による評価	社会性が高い企業が投資先	その他	わからない・特にない (%)
2021年	(7317)	38.5	35.1	26.9	25.4	18.7	9.5	9.0	8.8	7.7	6.9	5.7	4.0	3.5	0.5	11.5
2020年	(6626)	37.1	32.9	23.7	26.6	18.7	11.0	10.6	10.6	7.1	8.2	5.9	4.7	3.5	0.7	11.9
2019年	(6449)	35.2	33.8	22.6	26.5	17.6	10.8	11.4	10.4	6.2	10.1	5.6	4.7	2.9	0.4	12.8
年代別	20代 (744)	45.3	32.8	26.5	23.7	17.2	10.1	6.6	7.1	6.2	4.7	5.1	2.6	3.2	0.1	9.8
	30代 (1112)	45.2	36.6	37.9	23.9	21.7	6.8	7.6	5.8	10.3	4.3	5.2	4.3	2.3	0.1	7.3
	40代 (1400)	39.4	33.4	35.0	25.3	20.4	7.6	7.9	6.1	10.1	5.8	5.6	3.0	2.8	0.4	9.1
	50代 (1198)	35.4	34.1	30.1	24.0	19.9	8.0	10.8	8.1	7.3	5.9	5.5	4.5	2.2	0.5	14.1
	60代 (1387)	36.1	34.5	18.8	27.8	17.2	10.0	11.1	11.1	6.6	7.6	7.2	4.7	4.3	0.8	13.8
	70代 (1476)	33.7	38.1	16.1	26.6	16.1	13.5	8.7	12.8	5.6	11.0	5.3	4.6	5.4	0.7	13.6

投資信託の購入の際に今後重視したい点（重複回答）

(Q10② 報告書P55)

(投資信託現在保有者・保有経験者ベース)

	n=	値上がりへの期待	過去の運用実績	手数料や運用管理費用の水準	値下がり不安が少ない	少額から投資できる	換金のしやすさ	商品内容のわかりやすさ	純資産額の大きさ	過去の分配金額	商品コンセプト	分配頻度	社会性が高い企業が投資先	評価会社による評価	その他	わからない・特にない (%)
2020年	(7317)	31.0	29.2	23.6	22.1	12.6	7.3	7.0	6.3	6.2	5.6	4.7	4.3	3.2	0.4	14.9
2020年	(6626)	26.4	26.9	19.8	23.2	12.4	8.1	8.3	5.8	6.6	5.5	5.6	4.2	4.2	0.7	15.5
2019年	(6449)	26.5	24.7	19.3	23.2	11.4	8.0	8.3	5.0	6.8	5.4	6.3	3.2	3.6	0.5	17.4
年代別	20代 (744)	29.3	35.3	23.3	20.0	13.0	8.6	4.3	6.0	5.4	5.2	4.2	5.0	1.9	0.0	10.8
	30代 (1112)	35.1	34.5	33.0	20.1	14.2	5.4	5.6	9.0	4.9	5.9	3.7	4.0	3.8	0.1	8.4
	40代 (1400)	31.4	32.0	31.4	20.9	14.4	5.9	7.0	8.1	4.5	5.6	3.4	3.6	2.6	0.3	10.5
	50代 (1198)	30.6	27.5	25.0	21.3	13.9	6.3	8.5	5.6	5.9	5.2	4.2	2.9	3.5	0.5	16.3
	60代 (1387)	28.7	26.1	17.3	23.9	11.2	7.8	7.9	4.8	7.9	5.8	4.3	5.3	3.7	0.4	18.7
	70代 (1476)	31.1	23.8	14.0	24.5	10.0	9.8	7.3	4.5	7.8	5.7	7.7	4.9	3.3	0.8	21.5

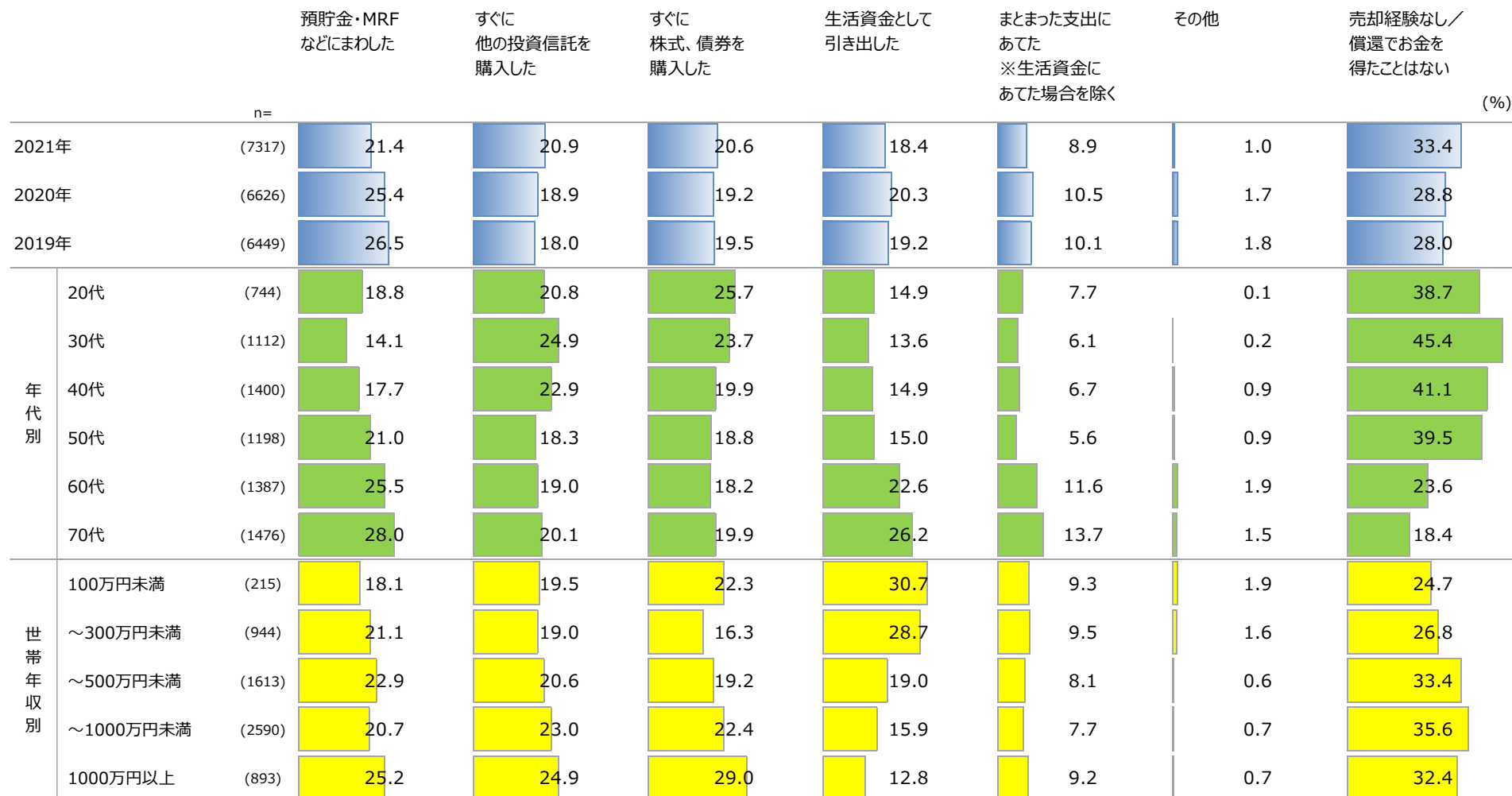
- 購入時重視点は、「過去の運用実績」(38.5%)が最も高く、次いで「値上がりへの期待」(35.1%)、「手数料や運用管理費用の水準」(26.9%)で、いずれも前回より増加。今後の重視点では、「値上がりへの期待」(31.0%)、「過去の運用実績」(29.2%)、「手数料や運用管理費用の水準」(23.6%)が続く。購入時重視点と比べて、「値上がりへの期待」の順位が上がる。
- 購入の際の重視点、今後重視したい点ともに「過去の運用実績」「手数料や運用管理費用の水準」「少額から投資できる」は若年層ほど重視率が高い傾向。

3. 投資信託の購入・保有に関する意識（4）

投資信託の償還・売却で得た資金の流出先（重複回答）

（Q14 報告書P59）

（投資信託現在保有者・保有経験者ベース）



- 投資信託の償還・売却資金流出先は、「預貯金・MRFなどにまわした」(21.4%)が最も高いが、「売却経験なし／償還でお金を得たことはない」も33.4%と高い。
- 年代別で見ると、高齢層ほど「預貯金・MRF」「生活資金」「まとまった支出」が増加する傾向。「すぐに他の投資信託購入」「すぐに株式・債券を購入」は若年層で高い傾向。

4. 投資信託の積立投資の認知・利用状況（1）

積立投資プランの認知状況

(Q19 報告書P86)

	n=	少額から利用できること	長い時間をかけて資産運用したい人に向いていること	つみたてNISA・確定拠出年金等の税制優遇制度でも活用できる	自動引き落としが利用できそのつど申し込む必要がない	ドル・コスト平均法の効果が得られること	その他に知っている内容	積立投資プランがあることを知らない
2021年	(20000)	46.2	26.6	22.9	21.1	16.8	0.1	42.1
2020年	(20000)	44.0	24.4	21.1	19.7	14.7	0.1	44.5
2019年	(20000)	43.1	22.8	19.2	18.7	13.5	0.1	46.7

→ 「積立投資プラン」の認知率2021年57.9%/2020年55.5%/2019年53.3%(赤枠内のいずれかの特徴を知っている人)

年代別	n=	少額から利用できること	長い時間をかけて資産運用したい人に向いていること	つみたてNISA・確定拠出年金等の税制優遇制度でも活用できる	自動引き落としが利用できそのつど申し込む必要がない	ドル・コスト平均法の効果が得られること	その他に知っている内容	積立投資プランがあることを知らない
20代	(2594)	41.6	24.7	21.9	18.7	18.4	0.0	42.2
30代	(3050)	50.2	30.5	26.4	24.1	23.1	0.0	37.7
40代	(3979)	47.4	28.2	25.1	22.4	20.5	0.1	40.5
50代	(3505)	43.8	24.0	21.9	20.4	16.2	0.2	45.7
60代	(3439)	47.0	25.7	20.9	21.3	13.3	0.1	43.1
70代	(3433)	46.2	26.2	21.1	19.2	9.7	0.1	43.1

- 積立投資プランについていずれかの内容認知率は、全体で57.9%と半数以上になる。具体的には、「少額から利用できる」(46.2%)が特に高く、以下「長い時間をかけて資産運用したい人向き」「つみたてNISA・確定拠出年金等でも活用可能」「自動引き落としが利用可能」が20%以上で続く。
- いずれの項目も30～40代の認知が高い。

4. 投資信託の積立投資の認知・利用状況（2）

投資信託の積立投資の利用状況

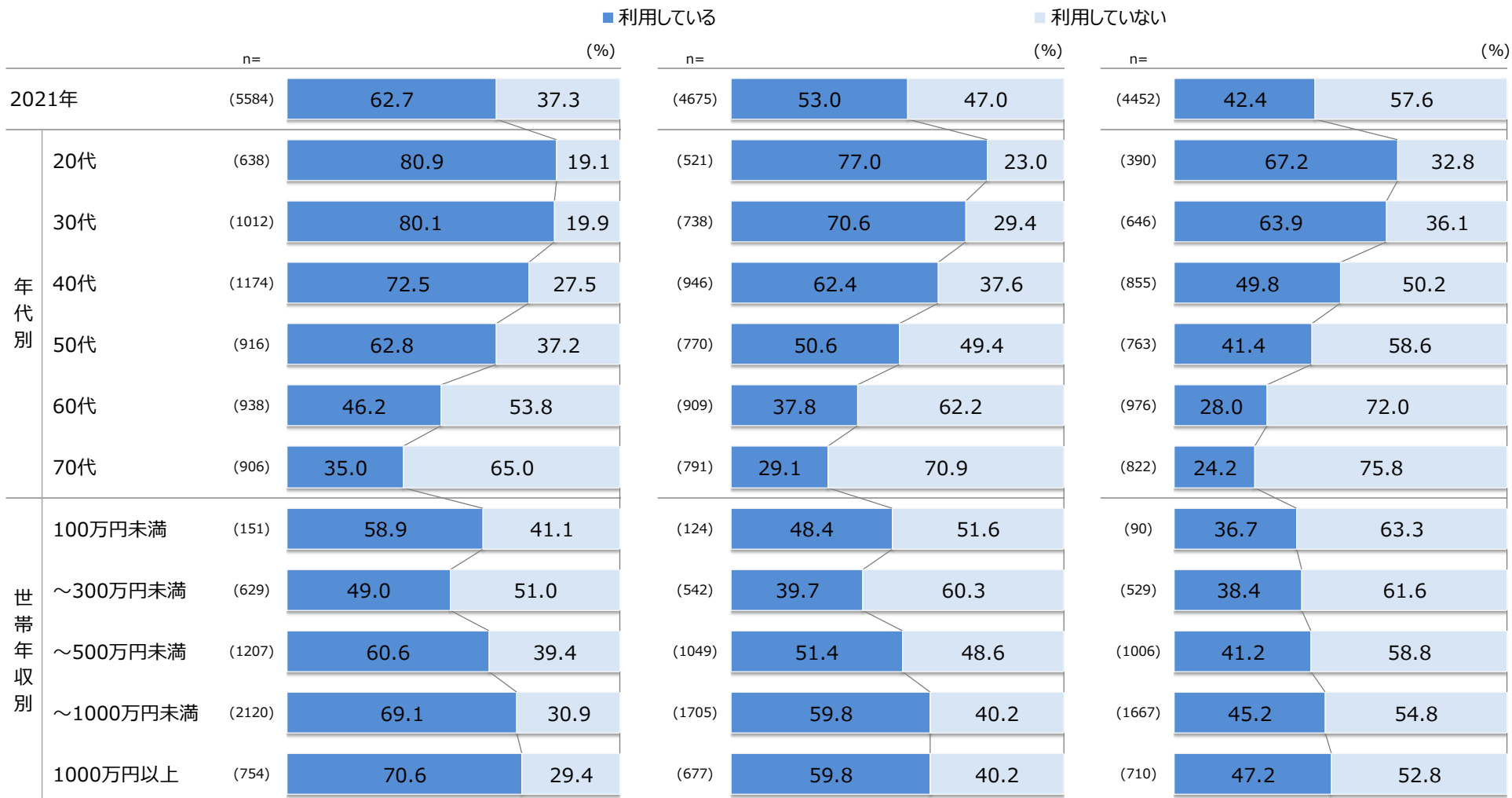
(Q18 報告書P39)

(投資信託現在保有者ベース)

【2021年属性別】

【2020年】

【2019年】



- 積立投資利用率は62.7%。前回と比べて9.7ポイント増加。
- 若年層ほど積立投資利用率は高く、特に20・30代は80%以上と高い。また、すべての年代で積立投資の利用率が増加している。

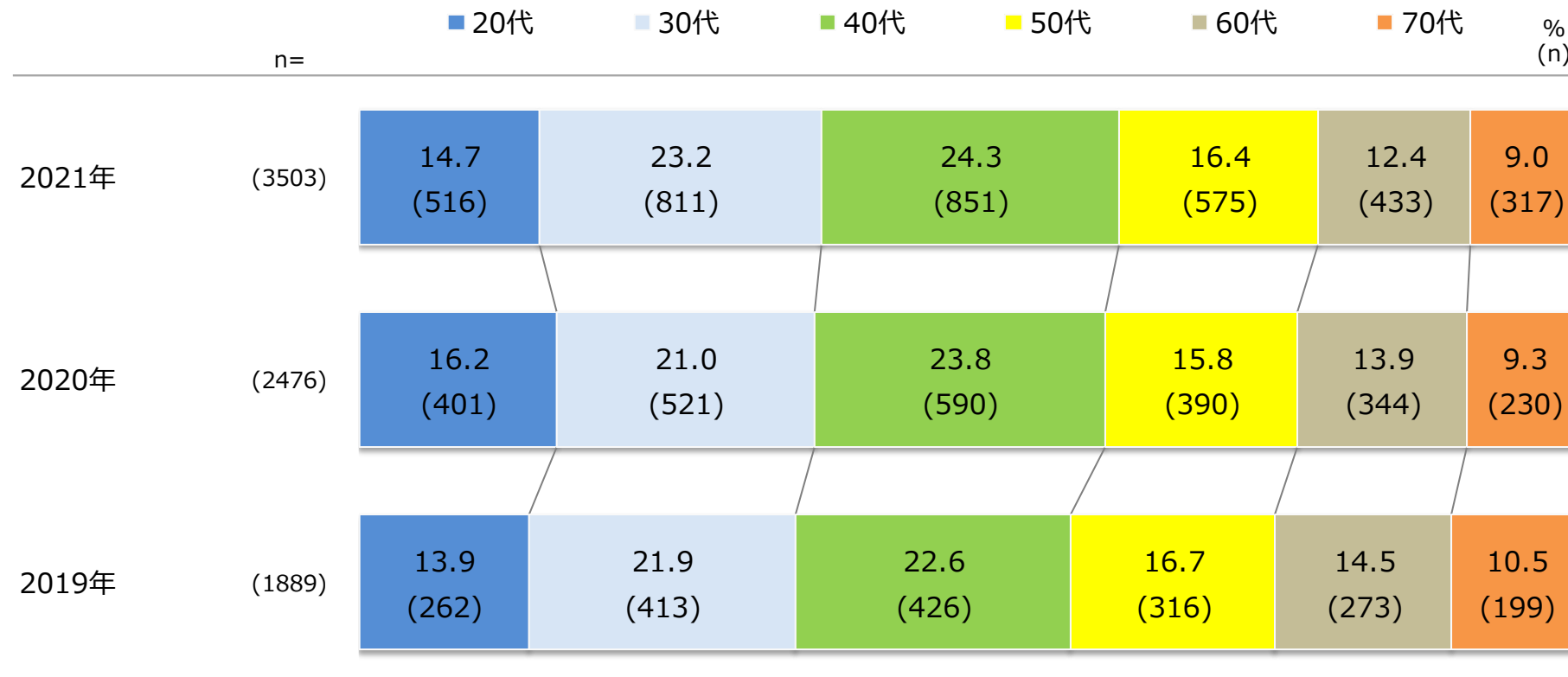
4. 投資信託の積立投資の認知・利用状況（3）

投資信託の積立投資の利用状況

(Q18 報告書P40)

(投資信託現在保有者で積立投資利用者ベース)

【積立投資利用者の年代構成比】



● 年代構成比では、前回と比べて30～50代の比率がやや増加。全体としては40代以下が6割以上を占める。

5. 投資信託の非購入理由

投資信託の非購入理由（重複回答）

(Q26 報告書P72)

(投資信託保有未経験者ベース)

※選択肢「家族から投資について良い話を聞かないから」「友人・知人から投資について良い話を聞かないから」は2021年より聴取

	n=	投資の知識がないので	そもそも興味が ないので	損をしそうで 怖いので	まとまった 資金がない ので	投資信託の 仕組みが よくわから ないので	元本保証が ないので	手数料など 費用が高い ので	なんとなく 機会が なかったの で	商品の種類 が多く自分 では選択 できないの で	投資信託の 存在を 知らなかつ たので	購入するの に手間が かかるので	友人・知人 から投資に ついて良い 話を聞か ないから	投資信託を 買うよりも 自分で株な どを運用した 方がい いから	家族から 投資につ いて良い話 を聞か ないから	その他	(%)
2021年	(12683)	39.9	36.8	30.5	23.3	23.0	21.6	12.6	9.9	7.5	5.6	4.7	3.2	2.9	2.7	0.8	
2020年	(13374)	39.5	36.8	31.4	24.4	22.8	22.6	12.6	9.2	7.7	5.6	5.1	-	3.6	-	0.8	
2019年	(13551)	36.8	41.7	29.1	22.7	20.2	22.9	12.9	7.4	6.7	4.9	4.2	-	4.0	-	0.7	
年代別	20代 (1850)	43.5	32.5	27.9	25.1	23.8	9.5	7.8	13.7	5.4	8.5	5.4	2.9	1.9	2.7	0.6	
	30代 (1938)	46.4	31.4	33.3	25.6	27.4	15.4	10.8	11.6	8.8	6.8	5.9	2.4	2.3	3.0	0.7	
	40代 (2579)	40.8	31.8	32.4	25.5	23.1	20.6	13.6	11.2	7.7	5.5	5.9	2.6	2.6	2.7	1.0	
	50代 (2307)	35.7	38.1	30.0	23.0	20.8	23.8	14.4	8.5	6.8	5.2	4.7	2.3	2.8	2.3	0.5	
	60代 (2052)	36.8	41.5	31.9	20.5	21.1	30.0	14.8	7.8	8.7	4.6	3.6	4.1	3.3	2.4	1.2	
	70代 (1957)	37.0	46.0	27.0	19.7	22.5	29.2	13.1	6.8	7.5	2.9	2.8	5.2	4.8	3.4	1.1	

- 投資信託の非購入理由は、「投資の知識がない」(39.9%)、「興味ががない」(36.8%)、「損をしそうで怖い」(30.5%)が上位。
- 年代別では、若年層ほど「投資の知識がない」「まとまった資金がない」「なんとなく機会がなかった」「投資信託の存在を知らなかった」が高くなり、「興味ががない」「元本保証がない」は低くなる傾向。

6. 投資信託購入検討のきっかけ

購入検討のきっかけ（重複回答）

(Q27 報告書P74)

(投資信託保有未経験者ベース)

※選択肢「保有しているポイントで投資/運用ができるなら」は2021年より聴取

※「家族に勧められたら」「友人・知人に勧められたら」は、2020年までの「身近な人に勧められたら」を分割して聴取のため同じ数値

	n=	保有しているポイントで投資/運用ができるなら	金融や投資を勉強して理解できたなら	手取り収入が増えたら	貯蓄が一定額に達したら	低リスクの投資信託商品が充実してきたら	初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら	家族に勧められたら	金融機関の窓口などで、専門の知識を持つ人に教えてもらえるなら	手数料の低い投資信託商品が充実してきたら	経済が上向きになり、値上がり期待できる様になったら	友人・知人に勧められたら	税制上の優遇措置が、より拡充してきたら	退職金・相続などでの臨時収入があったら	職場で確定拠出年金や職場つみたてNISA等の利用環境が整備されたら	その他
2021年	(12683)	27.1	20.9	17.5	16.2	14.3	11.7	11.2	11.2	9.7	9.2	7.1	6.0	4.0	2.7	8.8
2020年	(13374)	-	22.1	20.5	17.6	16.7	13.4	20.1	12.4	11.5	11.7	20.1	8.9	5.1	10.0	9.3
2019年	(13551)	-	20.1	19.7	17.0	15.8	13.3	17.4	10.9	11.8	11.7	17.4	8.9	5.1	12.4	9.4
年代別	20代 (1850)	30.1	25.4	24.9	22.0	11.3	16.3	18.9	13.8	6.2	7.0	13.8	3.7	2.8	4.3	3.6
	30代 (1938)	31.6	23.9	24.1	20.3	13.4	13.9	16.5	14.3	7.7	9.3	11.0	5.2	4.2	3.2	3.9
	40代 (2579)	30.1	23.3	20.0	18.0	14.7	11.3	10.4	10.2	11.0	8.8	7.1	5.8	4.4	3.1	5.9
	50代 (2307)	28.2	16.8	16.3	13.8	13.5	8.5	8.2	8.8	11.1	8.5	4.6	5.6	4.3	2.1	9.9
	60代 (2052)	23.7	18.3	9.8	11.4	16.6	10.2	7.0	9.6	11.3	10.2	3.4	7.2	4.9	2.0	13.2
	70代 (1957)	18.0	18.4	9.8	12.1	16.2	10.9	7.6	11.1	9.8	11.3	3.6	8.2	3.4	1.4	16.4

- 投資信託購入検討のきっかけは、「保有しているポイントで投資/運用ができるなら」(27.1%)、「金融や投資を勉強して理解できたなら」(20.9%)、「手取り収入が増えたら」(17.5%)が上位。
- 年代別では、若年層ほど「保有しているポイントで投資/運用ができるなら」「金融や投資方法を勉強して理解したら」「手取り収入が増えたら」「貯蓄が一定額に達したら」「家族に勧められたら」「知人・友人に勧められたら」が高くなる傾向。

7. 投資信託の興味・関心・購入のきっかけ



投資信託の興味・関心・購入のきっかけ（重複回答）

（現在保有・投資信託保有経験者ベース）

（Q8 報告書P47） ※選択肢「YouTube等の動画配信を観て」「ポイントで投資/運用ができることを知って」は2021年より聴取
 ※「家族などから、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて」「友人・知人から、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて」は2020年までの「家族や友人などから話を聞いて」を分割して聴取
 ※「少額投資非課税制度（NISA、ジュニアNISA、つみたてNISA）があるから」は2020年まで「少額投資非課税制度が始まったので」聴取

		n=	証券会社、銀行などの金融機関の人に勧められて	インターネットで投資信託について見たり調べたりして	少額投資非課税制度があるから	投資信託に関する本を読んで	ポイントで投資/運用ができることを知って	投資信託の商品広告などを観て	YouTube等の動画配信を観て	経済的に余裕ができたので	景気や市場の状況を見て	証券会社、銀行などの金融機関から送られてきたDMを見たり、電話案内を聞いて	新聞、雑誌などの投資信託の記事を見て	友人・知人から、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて	家族などから、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて	「老後200万円」に関する各種報道を受けて	確定拠出年金で投資信託を選択した	講演会やセミナーなどで、投資信託が資産形成に良いという話を聞いて	SNSからの情報を通じて	確定拠出年金で投資信託を選択して良かったので、他の口座でも購入した	その他	(%)
2021年		(7317)	34.3	28.1	17.1	12.5	10.7	9.4	8.8	8.4	8.0	7.7	7.6	7.5	7.2	6.8	6.4	6.1	6.1	2.6	2.3	
2020年		(6626)	40.0	25.0	11.4	12.5	-	10.8	-	10.2	8.6	8.5	8.3	10.1	10.1	4.8	6.6	6.7	3.8	2.2	2.9	
2019年		(6449)	42.6	23.0	9.6	11.3	-	11.2	-	10.2	8.2	9.1	9.9	10.5	10.5	2.7	5.3	6.5	2.4	2.2	2.9	
性別	男性	(4470)	28.8	33.3	17.1	15.1	11.7	10.9	11.1	9.0	9.7	8.5	8.5	6.3	4.1	7.3	8.2	6.9	5.6	3.4	2.2	
	女性	(2847)	43.0	20.0	17.0	8.5	9.2	7.0	5.3	7.5	5.5	6.5	6.3	9.2	12.0	6.1	3.5	4.8	6.8	1.3	2.5	
年代別	20代	(744)	17.9	33.2	20.0	14.9	14.2	8.3	16.4	9.0	9.0	12.0	5.1	8.3	9.0	9.7	6.2	10.8	19.5	4.4	1.2	
	30代	(1112)	15.8	44.4	26.5	21.3	17.9	9.4	18.4	8.7	10.0	7.9	5.7	10.2	8.9	12.1	9.0	5.9	15.3	4.0	1.6	
	40代	(1400)	19.3	42.1	22.0	17.4	16.9	10.1	12.9	7.2	8.2	6.6	9.2	7.4	7.1	10.2	10.4	6.4	6.6	4.2	1.6	
	50代	(1198)	30.8	29.0	14.0	11.7	11.2	10.9	7.0	7.6	8.1	6.1	8.4	6.3	7.3	6.3	8.5	4.3	2.2	2.3	3.2	
	60代	(1387)	48.7	15.8	11.6	7.8	5.6	9.4	2.9	8.4	6.6	8.5	8.1	5.4	6.2	3.1	3.9	5.0	0.6	1.2	3.1	
	70代	(1476)	60.2	10.6	11.4	5.4	2.3	7.9	0.9	9.6	7.2	7.0	7.6	7.9	5.9	2.2	1.4	6.0	0.1	0.5	2.7	
世帯年収別	100万円未満	(215)	33.0	26.0	13.0	10.2	10.7	8.8	9.3	6.5	5.6	11.6	6.0	5.1	7.9	4.2	5.1	6.0	4.7	2.3	1.9	
	～300万円未満	(944)	42.5	23.4	12.2	9.4	8.4	8.9	6.1	6.0	6.1	7.4	7.0	6.0	5.7	5.3	2.2	5.1	3.4	1.0	2.9	
	～500万円未満	(1613)	37.6	28.5	17.8	12.6	10.7	8.4	9.3	7.4	7.3	7.7	7.8	7.7	6.4	6.5	4.9	6.8	6.9	2.0	2.0	
	～1000万円未満	(2590)	29.4	32.0	19.7	15.4	11.2	10.6	10.7	9.2	8.6	7.6	8.1	8.3	7.6	8.6	8.5	6.4	7.6	3.4	2.4	
	1000万円以上	(893)	30.3	32.5	19.0	13.8	10.8	11.4	10.1	13.3	12.2	10.8	10.2	7.3	10.3	7.7	11.4	8.0	7.1	5.2	1.1	
保有状況別	現在保有層	(5584)	31.3	32.3	20.6	14.5	12.6	9.5	10.9	8.8	8.9	7.8	7.3	7.3	7.6	8.1	7.6	6.5	7.2	3.1	1.9	
	保有経験層（現在非保有）	(1733)	44.0	14.5	5.6	6.4	4.7	9.1	2.0	7.2	5.1	7.5	8.5	7.9	5.8	2.7	2.5	4.8	2.3	0.9	3.8	
投資信託種類別	株式投資信託保有層	(4288)	29.5	36.3	22.8	17.0	12.8	10.6	13.0	9.3	10.0	8.0	8.1	7.9	7.7	9.1	8.6	6.9	8.5	3.5	1.6	
	その他投資信託保有層	(837)	40.3	23.1	14.9	6.9	8.6	8.0	4.2	6.7	5.6	9.4	5.5	5.7	7.9	5.1	5.0	6.1	3.0	2.0	1.4	

- 投資信託の興味・関心・購入のきっかけは、「金融機関の人に勧められて」(34.3%)が最も高い。次いで「インターネットで見たり調べたりして」(28.1%)、「少額投資非課税制度があるから」(17.1%)が続く。前回より「金融機関の人に勧められて」が5.7ポイント減少。「少額投資非課税制度があるから」は5.7ポイント増加。
- 年代別では、「金融機関の人に勧められて」は年代が上がるほど高くなる傾向。また、「インターネットで見たり調べたりして」「少額投資非課税制度があるから」「投資信託に関する本を読んで」「ポイントで投資/運用ができることを知って」は年代が下がるほど高くなる傾向。「YouTube等の動画配信を観て」「SNSからの情報を通じて」は20・30代で高い傾向。
- 投資信託現在保有層は、保有経験層に比べて「インターネットで見たり調べたりして」「少額投資非課税制度があるから」「投資信託に関する本を読んで」「ポイントで投資/運用ができることを知って」「YouTube等の動画配信を観て」などが高く、「金融機関の人に勧められて」は低い。

8. 投資信託購入時参考情報

投資信託購入時参考情報（重複回答）

(Q11 報告書P51)

※選択肢「YouTube等の動画配信」は2021年より聴取

(現在保有・投資信託保有経験者ベース)

		n=	目論見書・運用報告書	投資信託を販売している会社のHP	販売用資料	金融機関の担当者の話	投資に関する情報サイト	投資信託を運用している会社のHP	YouTube等の動画配信	その他のインターネットの情報サイト	投資信託や資産運用に関する本	投資信託の評価機関	新聞	SNSからの情報	親族や知人、友人の話	雑誌	投資や資産形成に関するセミナーなど	テレビ番組	その他	特にな
2021年		(7317)	29.3	28.1	25.8	19.2	17.2	15.8	12.5	12.1	11.2	11.0	9.6	9.2	7.8	4.8	4.7	4.0	0.4	12.7
2020年		(6626)	28.8	28.7	30.4	22.4	16.2	15.2	-	13.8	10.4	11.0	11.5	6.2	8.0	5.3	5.1	4.8	0.5	13.8
2019年		(6449)	28.7	28.0	30.7	24.5	15.5	15.5	-	11.6	9.2	11.1	12.8	4.2	8.2	5.4	5.3	4.9	0.4	15.1
性別	男性	(4470)	33.2	30.2	25.3	12.9	19.5	18.3	14.4	12.3	12.4	13.1	10.1	8.9	4.7	5.3	4.7	4.0	0.4	12.4
	女性	(2847)	23.3	24.9	26.6	29.0	13.5	12.0	9.4	11.7	9.2	7.7	8.9	9.6	12.7	4.0	4.6	4.0	0.4	13.2
年代別	20代	(744)	30.1	27.0	22.6	6.6	17.2	18.4	22.3	12.4	12.2	11.7	8.5	23.9	9.4	3.9	4.0	3.2	0.1	10.1
	30代	(1112)	35.7	28.5	22.6	6.6	21.2	15.6	24.8	17.1	18.3	14.0	7.6	20.9	10.7	5.7	5.8	4.8	0.3	8.5
	40代	(1400)	30.5	32.2	22.1	8.7	22.3	16.9	18.0	17.6	14.1	12.4	8.3	12.4	8.1	5.9	4.8	4.4	0.1	10.4
	50代	(1198)	26.8	31.8	24.9	15.3	18.9	17.5	10.4	11.4	11.9	11.9	8.8	4.7	6.6	5.8	3.1	3.6	0.4	15.1
	60代	(1387)	26.9	26.5	30.9	28.8	15.1	12.6	5.1	8.4	6.4	9.3	11.0	1.7	7.1	5.2	4.0	4.3	0.7	15.9
	70代	(1476)	27.3	23.1	29.5	39.2	9.8	15.2	1.5	6.8	6.4	7.9	12.3	0.5	6.3	2.3	6.0	3.4	0.6	14.4
世帯年収別	100万円未満	(215)	24.7	29.3	26.5	15.3	16.7	13.5	14.0	11.6	8.8	11.2	6.5	7.0	8.8	4.7	4.2	5.6	0.0	12.1
	～300万円未満	(944)	24.8	26.6	24.9	25.2	13.7	12.1	8.5	10.0	8.5	7.8	8.5	5.7	5.4	4.3	3.5	4.6	0.5	15.7
	～500万円未満	(1613)	29.3	26.8	27.3	21.1	17.2	16.1	13.0	12.2	11.7	10.1	9.9	9.9	7.4	4.1	4.5	3.5	0.2	10.4
	～1000万円未満	(2590)	31.1	30.8	25.9	16.0	19.5	18.0	15.5	13.4	13.0	13.0	9.4	11.8	8.4	6.1	5.3	4.2	0.4	9.8
	1000万円以上	(893)	36.2	32.5	30.0	14.4	21.1	19.6	13.3	13.0	12.0	13.8	13.2	10.3	11.2	5.8	6.4	3.8	0.3	11.0
保有状況別	現在保有層	(5584)	32.1	29.4	25.5	18.7	18.3	16.3	14.8	13.3	12.4	11.8	8.7	10.5	7.3	4.9	5.2	4.0	0.4	10.7
	保有層・保有経験層(現在非保有)	(1733)	20.2	23.9	27.0	20.8	13.5	14.3	4.9	8.0	7.0	8.4	12.5	4.8	9.6	4.4	3.1	3.9	0.5	19.0
現在保有種類別	株式投資信託保有層	(4288)	35.0	31.9	26.5	16.7	20.4	17.5	17.5	14.3	14.1	13.4	9.4	12.3	7.3	5.5	5.5	4.3	0.3	8.0
	その他投資信託保有層	(837)	28.9	26.5	27.2	28.4	13.7	15.3	7.2	11.9	7.8	8.0	8.7	5.4	6.8	3.0	3.8	3.5	0.1	9.9

- 購入時の参考情報は、「目論見書・運用報告書」(29.3%)、「投資信託を販売している会社のHP」(28.1%)、「販売用資料」(25.8%)が上位。前回より「販売用資料」が4.6ポイント減少。
- 年代別では、若年層は、インターネット経由や動画、SNSからの情報が高い。一方、「金融機関の担当者の話」は高齢層ほど高い。
- 投資信託現在保有種類別では、株式投信保有層で「目論見書・運用報告書」が全体より5.7ポイント、その他投信保有層で「金融機関の担当者の話」が全体より9.2ポイント高い。

9. 投資意識に関する状況（1）

ESG・SDGs関連投資意向（重複回答）

（Q28 報告書P92）

		n=	「医療・福祉の充実」 に取り組む企業	「環境問題の改善」 に取り組む企業	「再生エネルギーの 普及」に取り組む 企業	「貧困・飢餓問題」 に取り組む企業	「教育格差の是正」 に取り組む企業	「ジェンダーフリー・ 女性活躍の推進」 に取り組む企業	その他	購入したいと思う ものはない	(%)
2021年		(20000)	30.7	29.6	28.6	19.4	13.9	11.6	0.4	43.6	
2020年		(20000)	33.5	27.9	27.2	17.6	13.7	10.6	0.4	43.1	
性別	男性	(9952)	28.6	29.2	30.0	17.9	13.5	9.7	0.4	43.9	
	女性	(10048)	32.9	30.0	27.2	20.9	14.2	13.4	0.4	43.4	
年代別	20代	(2594)	30.5	24.5	21.2	23.6	20.0	20.1	0.3	39.3	
	30代	(3050)	34.1	27.0	25.8	23.5	19.0	15.2	0.1	39.0	
	40代	(3979)	32.0	28.3	28.8	20.4	16.0	11.5	0.4	41.6	
	50代	(3505)	26.4	27.2	27.0	17.4	10.6	9.7	0.3	49.5	
	60代	(3439)	29.0	33.0	31.8	17.2	10.0	8.2	0.6	46.7	
	70代	(3433)	32.4	36.3	34.8	15.8	9.4	7.3	0.6	44.1	
世帯 年収別	100万円未満	(912)	23.2	21.7	21.2	18.0	10.9	12.0	0.9	52.2	
	～300万円未満	(3189)	30.6	28.6	27.9	20.6	12.5	10.6	0.5	45.4	
	～500万円未満	(4119)	34.5	32.4	30.9	21.2	15.1	12.6	0.2	38.2	
	～1000万円未満	(5689)	34.5	33.6	32.7	20.9	16.5	12.2	0.2	36.4	
	1000万円以上	(1530)	36.7	37.1	35.8	23.1	18.0	15.9	0.2	33.7	
保有 状況別	保有層・ 保有経験層	現在保有層 (5584)	39.2	42.3	41.6	23.6	18.6	14.4	0.3	27.7	
	保有経験層 (現在非保有)	(1733)	36.5	37.0	35.1	18.4	14.0	11.5	0.4	35.0	
	保有 未経験層	金融資産 保有経験有 (2548)	31.1	31.5	31.0	19.3	13.8	10.2	0.4	43.2	
	金融資産 保有経験無 (10135)	25.0	20.9	19.7	17.3	11.2	10.4	0.4	54.0		
現在 保有 種類別	株式投資信託保有層	(4288)	40.6	43.1	43.1	24.8	19.6	15.1	0.3	25.7	
	その他投資信託保有層	(837)	38.9	44.2	42.5	19.5	17.0	12.7	0.2	25.6	

- 「持続可能な社会」の取り組みを行う企業に対する投資意向をたずねたところ、「医療・福祉の充実」に取り組む企業が30.7%で最も高く、次いで「環境問題の改善」(29.6%)、「再生エネルギーの普及」(28.6%)、「貧困・飢餓問題」(19.4%)が続く。
- 年代別では、若年層ほど「貧困・飢餓問題」「教育格差の是正」「ジェンダーフリー・女性活躍の推進」が高く、高齢層ほど「環境問題の改善」「再生エネルギーの普及」が高くなる傾向。
- 投信現在保有層では、どの項目も他層より高い。

9. 投資意識に関する状況 (2)

金融教育の経験 (重複回答)

(Q29① 報告書P94)

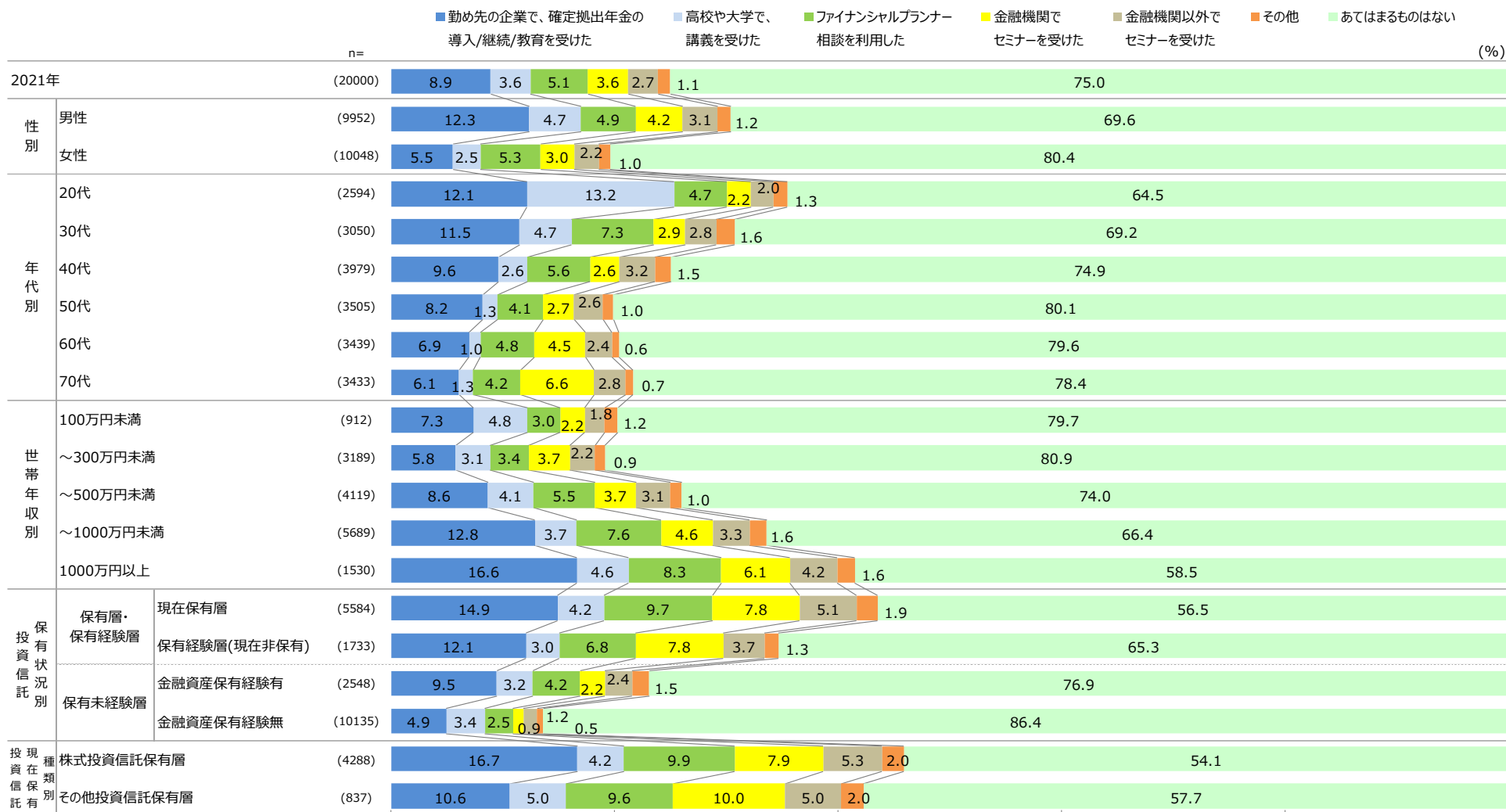
		n=	勤め先の企業で、 確定拠出年金の導入/ 継続/教育を受けた	ファイナンシャルプランナー 相談を利用した	金融機関でセミナーを 受けた	高校や大学で、講義を 受けた	金融機関以外でセミナーを 受けた	その他	あてはまるものはない	(%)
2021年		(20000)	14.2	8.1	6.9	6.3	5.2	1.2	71.0	
性別	男性	(9952)	19.2	8.4	8.3	7.9	6.1	1.2	65.7	
	女性	(10048)	9.2	7.8	5.6	4.7	4.4	1.2	76.2	
年代別	20代	(2594)	18.4	7.7	4.8	19.1	4.2	1.4	60.2	
	30代	(3050)	19.2	11.4	5.6	8.4	5.8	1.8	65.2	
	40代	(3979)	14.7	8.8	5.3	5.4	5.3	1.6	71.1	
	50代	(3505)	12.4	6.4	5.3	3.0	4.5	1.0	76.7	
	60代	(3439)	11.4	7.3	8.7	2.7	5.4	0.8	75.3	
	70代	(3433)	10.5	7.1	11.5	2.9	5.9	0.8	74.0	
世帯年収別	100万円未満	(912)	10.1	4.5	3.7	7.2	3.3	1.2	76.8	
	～300万円未満	(3189)	9.7	5.6	6.7	5.1	4.3	1.0	76.8	
	～500万円未満	(4119)	14.2	8.4	7.4	6.7	6.0	1.2	69.5	
	～1000万円未満	(5689)	20.1	11.9	8.8	7.6	6.5	1.7	61.9	
	1000万円以上	(1530)	26.2	13.5	11.6	9.3	8.4	1.6	54.4	
保有状況別	保有層・ 保有経験層	現在保有層	(5584)	24.5	15.7	14.9	7.8	10.4	2.0	51.6
		保有経験層 (現在非保有)	(1733)	17.6	11.0	14.3	6.6	7.6	1.4	60.1
	保有 未経験層	金融資産 保有経験有	(2548)	14.8	6.4	4.3	6.0	4.2	1.6	72.3
		金融資産 保有経験無	(10135)	7.7	3.8	1.9	5.5	2.3	0.6	83.2
現在保有 種類別	株式投資信託保有層	(4288)	27.1	16.7	15.3	8.2	11.0	2.1	49.2	
	その他投資信託保有層	(837)	18.6	13.7	17.1	8.1	9.2	2.3	52.6	

- これまでに、お金の話にふれたことがあるものは、「勤め先の企業で、確定拠出年金の導入/継続/教育を受けた」が14.2%で最も高い。次いで、「ファイナンシャルプランナー相談を利用した」(8.1%)、「金融機関でセミナーを受けた」(6.9%)、「高校や大学で、講義を受けた」(6.3%)が続く。
- 年代別では、若年層ほど「勤め先の企業で、確定拠出年金の導入/継続/教育を受けた」「高校や大学で、講義を受けた」が高い。「金融機関でセミナーを受けた」が60～70代が高い。世帯年収が高くなるにつれて金融教育の経験が高くなる傾向。
- 投信現在保有層では、「勤め先の企業で、確定拠出年金の導入/継続/教育を受けた」「ファイナンシャルプランナー相談を利用した」「金融機関でセミナーを受けた」が全体より7.6ポイント以上高い。

9. 投資意識に関する状況 (3)

金融教育の評価

(Q29② 報告書P96)



- これまでに、お金の話にふれたことがあるものの中で一番良かったと思うものは「勤め先の企業で、確定拠出年金の導入/継続/教育を受けた」が8.9%で最も高い。次いで、「ファイナンシャルプランナー相談を利用した」(5.1%)が続く。更に「高校や大学で、講義を受けた」「金融機関でセミナーを受けた」が同率で3.6%である。
- 年代別では、20代が「高校や大学で、講義を受けた」が13.2%と他の年代より高い。30代は「ファイナンシャルプランナー相談を利用した」、高齢層は「金融機関でセミナーを受けた」が高い。
- 投信保有状況別では、投信現在保有層は「勤め先の企業で、確定拠出年金の導入/継続/教育を受けた」「ファイナンシャルプランナー相談を利用した」が高い。